

1人1台端末の活用による実践事例

学校名	県立早島支援学校	実践者名	植月 典久
実践場面 (教科、領域、行事等)	定期考査での iPad の活用について		
単元・題材名	定期考査時		
学習目標・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーボード入力や音声入力を使って、自分の考えをまとめて、試験の解答をすることができる。 		
対象の生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文字を書くことが機能的に困難である。授業内容を後で振り返ることができるように、iPad を使ってスクリーンショットをしている。 ・ 学年末考査では、より主体的に取り組むことができるよう、iPad の活用を進めていく必要がある。 ・ 手の震えがあるため、iPad を使用する時には支援が必要である。 ・ 考査開始時に解答用紙全体を見ることを指導する必要がある。 		
活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する			
<p>○概要</p> <p>本生徒は、筆圧の低さや消しゴムを上手に使用できない等の機能上の困難さがあり、これまでの定期考査では、自分の考えを文章にして表すことが難しかった。そこで、iPad を活用することで、書くことに対する機能上の困難さを軽減できるような工夫を行った。</p> <p>結果として、手書きによる記述だけでなく、iPad を活用したキーボード入力や音声入力に取り組むことで、自分の考えを表出する方法が増えた。解答が長文になる時には、iPad の入力システムを活用したり、単語で答えられる時には記述したりして、その時の状況に合わせて解答方法を選択することができるようになった。</p>			
<p>○実践</p> <p>(1) 事前準備</p> <ol style="list-style-type: none"> ①機内モードにして、Wi-Fi に繋がらないようにする。 ②ホーム画面を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホーム画面に表示される（起動している）アプリを消す。 ・ ホーム画面には、考査時に使用するアプリのみ表示する。 ③使用するアプリ内を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ メモアプリの場合、アプリ内の不要なデータを削除する。 ・ ドキュメントの場合、印(★マーク)を付けたものだけを表示する。 ④キーボードは、本人が日頃操作している状態にする。（分割バージョン） ⑤その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ 解答用の枠は、入力しやすく消去されにくい枠になるよう工夫する。 ・ 直前に、「マイクがオンになるか」確認する。 ・ 解答用の枠のデータは、1つだけではなく予備も入れておく。 			

(2) 考査時

- ・問題の一部分で端末を用いる場合は、本人がその問題に取り組むために申し出た際に、iPad を渡す。
- ・音声入力の場合は必要に応じてマイクの準備をする。誤変換した場合は自分で入力する。
- ・解答用紙は「無記名」とする。（アップロードの危険性があるため）
- ・入力後に見直しをすることができるように、考査終了まで端末は本人が持つておく。

(3) 考査終了後

- ・プリントアウトして採点する。
（念のためスクリーンショットをとっておくと良い。）
- ・ドキュメントを使用する場合は、必ず「マイドライブ」に保存。
（「共有ドライブ」は不可）
- ・採点における平等性については、教科担当の判断で行う。
- ・データは、消去するまでロックをかけておく。
- ・採点した解答用紙を返却し、成績表を配布してからデータを消去する。



※定期考査に取り組む様子

活用のポイント・改善策等

- 手の震えがあるため、タッチ入力ではなくキーボード入力や音声入力を採用した。入力方法は、児童生徒の実態に合わせて検討していくとよいと思われる。
- iPad を正しい姿勢で見られるような環境設定が必要である。
- 解答以外の操作ができないように、iPad を設定しておく。
- 漢字の書き取り問題は、予測変換によるキーボード入力はしないようにする。